



968の2

				昭 昭
				21 20
	6	6	1	1 9
	6	3	28	4 13
<p>成興着、同地に収容            興南に移動、興南港にて積込作業等に従事            興南第七作業大隊に編入            興南港出帆            入「ソ」            隊長            大尉 横山清治</p>				

0842

969											
										昭 20	
										年	
										月	
										日	
9	9	8	8	8		3	3		3	3	2
2	1	26	15	9		24	20	同日	19	2	6
<p>通称号 朝第七六二三部隊</p> <p>第一五二警備大隊略歴</p> <p>略歴</p> <p>軍令陸甲第二一号により編成下令</p> <p>中部第四七部隊（鳥取）において編成完結</p> <p>鳥取出発</p> <p>宇品港出帆</p> <p>釜山上陸</p> <p>朝鮮新義州着</p> <p>爾後同地に本部、第一中隊を置き第二中隊を水豊に、第三中隊を新安州に駐屯せしめ教育訓練ならびに鉄道整備</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>停戦</p> <p>本部、第一中隊は新義州、第二中隊は水豊、第三中隊は新安州において武装解除</p> <p>本部以下各中隊平壤に集結</p> <p>将校は美勸洞に收容、同地将校大隊に編入</p>											
											摘 要

0843

				昭			昭		
				21			20		
	6	6	4	9	10	10	10		
	21	17	17	2	30	28	25		
	隊長	興南港出帆入「ソ」	秋乙出発	秋乙第六作業大隊編入	爾後作業大隊出発迄に病弱者約三〇名は延吉に転送された	下士官以下三合里に収容	興南港出帆入「ソ」	興南着	同地出発
	大尉	浅原	武一						

0844

第一五三警備大隊略歴												
通称号 朝第七六二四部隊												
昭 20	年	月	日	略							歴	
9	8	8	8	6	3	3	3	3	3	2	6	軍令陸甲第二一号により編成下令
2	18	15	9	31	25	23	20	19	2	6	2	中部第四八部隊（岡山）において編成完結
												岡山出発
												宇品港出帆
												釜山上陸
												平壤着
												本部、第三中隊を平壤に置き第一中隊を新幕に、第二中隊を新成川に駐屯せしめ教育訓練ならびに京義線鉄道警備
												第一中隊、第二中隊平壤に移動
												黄海道沿岸陣地構築のため一部派遣
												日「ソ」開戦
												停戦
												迄に黄海道沿岸派遣中の部隊平壤に復帰
												將校は美勒洞に収容
												摘要

0845

				昭 21		昭 20	
至		自					
7		6		4		10	
25		21		17		28	
隊長  大尉 平松義夫				興南港出帆入「ソ」		興南港出帆入「ソ」	
				同地出帆		同地第二三作業大隊に編入	
				秋乙第五、第六作業大隊等に編成替		下士官以下三合里に収容	
						興南着	
						美勒洞出帆	
						將校大隊に編入	

971

							昭 20	年 月 日	略	歴	摘 要
9	8	8	8	3	3	3	2				
1	26	15	9		24	20	2	6			
<p>本部以下各駐屯地にて武装解除            (除第三中隊)平壤に集結</p> <p>停戦</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>爾後教育訓練ならびに鉄道警備</p> <p>第三中隊 順川</p> <p>第二中隊 熙川</p> <p>第一中隊 満浦鎮</p> <p>本部 江界</p> <p>釜山上陸</p> <p>朝鮮平安北道江界着、次のとおり配備</p> <p>宇品港出帆</p> <p>中部第四八部隊(岡山)において編成完結</p> <p>軍令陸甲第二一号により編成下令</p>											

## 第一五四警備大隊略歴

通称号 朝第七六二五部隊

0847

	昭 21	昭 20
	6. 6	4 9 9
	21	17 11 16 3
<p>隊長 大尉 水谷 源 介</p>	<p>興南港出帆入「ソ」</p>	<p>同地出発 秋乙第六作業大隊に編成替 第三中隊は三合里に収容、所在作業大隊に編入 三合里第二三作業大隊編入</p>



		年		月		日	
		昭 19	2	1			
		昭 20	8	8	8	8	8
			11	4	上旬	下旬	9
		略		略		略	
		通称号 朝第七四一三部隊		特設警備第四〇七大隊略歴			
		軍令陸甲第一号により編成下令		朝鮮平安北道新義州において編成完結（常置員將校二、下士官七）		爾後同地付近の在郷軍人に対し短期間数次にわたり教育召集実施	
		日「ソ」開戦		幹部を防衛召集		兵の召集実施中停戦となり部隊を解散	
		残務整理のため残留せる少数の者は新義州において武装解除の後平壤に移動		平壤所在部隊と同一行動		隊長	
		大尉 田中正一					
		摘要					

0849

		昭 20					昭 19		年 月 日	略 歴	摘 要
		9	8	8	8	6	2	1			
		2	26	15	9	26	10	4			
隊長 中尉 東 新一		平壤所在部隊と同一行動 残務整理中の残置者平壤に移動武装解除 防衛召集を中止し部隊解散 停戦 日「ソ」開戦 平安南道鎮南浦に移住 爾後同地付近の在郷軍人に対し短期間数次にわたり教育召集実施 朝鮮平壤において編成完結（常置員将校二、下士官五） 軍令陸甲第一号により編成下令									

特設警備第四五三大隊略歴

通称号 朝第七四一四部隊

年 月 日	昭 21				昭 20				昭 19	
		7	6	6	9	8	8	8	8	2
	18	22	17	2	23	20	15	9	16	4
通称号 朝第七四一五部隊	<p>軍令陸甲第一号により編成下令  朝鮮平安南道沙里院において編成完結（常置員將校五、下士官一四）  爾後同地付近の在郷軍人に対し短期間数次にわたり教育召集実施  日「ソ」開戦  停戦  部隊解散  残務整理中の残置員は沙里院において武装解除後平壤に移動  平壤所在収容所に収容貨車荷役作業等に従事  同地出発  興南着  興南港出帆入「ソ」</p>									
略	<p>隊長  中尉 佐々木 康 久</p>									
略	<p>歴</p>									
摘要	<p>要</p>									

0851

				昭 20	年 月 日	特設警備第四〇九中隊略歴
	8	8	8	2		
	20	15	9	20	4	通称号 朝第七四八八部隊
中尉 下条秀夫	部隊解散	開戦後防衛召集実施中停戦	日「ソ」開戦	爾後同地付近の在郷軍人に対し短期間数次にわたり教育召集実施	軍令陸甲第一号により編成下令	
						摘要

0852

					昭 20	年
					1	月
					4	日
	8	8	2	2	1	
	15	9	20	5	4	
<p>特設警備第四一〇中隊略歴</p> <p>通称号 朝第七四三九部隊</p>						
<p>略歴</p>						
<p>軍令陸甲第一号により編成下令</p> <p>平師参動第一六〇号により編成着手</p> <p>朝鮮平安南道海州において編成完結（常置員将校一、下士官三）</p> <p>爾後同地付近の在郷軍人に対し短期間教次にわたり教育召集実施</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>停戦</p> <p>部隊解散</p> <p>隊長</p> <p>少尉 三原 栄一</p>						
						摘 要

0853

昭 21	昭 20	昭 19	年 月 日	略 歴	摘 要
7	7	10	9	軍令陸甲第一二八号により編成下令	
9	8	6	8	朝鮮平安南道平壤において編成完結（常置員將校一、下士官五）	
8	8			爾後同地付近の在郷軍人を短期間数次にわたり教育召集を実施	
8	8			現地召集兵をもつて同地付近の陣地構築	
18	15			日「ソ」開戦	
2	18			部隊解散	
18				一部の部隊残留者は所在部隊と同一行動 與南經由入「ソ」	
				隊長 少尉 深田 一郎	

## 第四〇二特設警備工兵隊略歴

通称号 朝第七四四部隊

0854

至自		至自		昭 20		年 月 日	略	歴	摘 要
9	8 8	8	8	8	7 3				
1	25 17	15	10	9	15 18	20	4	軍令陸甲第一号により編成下令	
<p>隊長</p> <p>一部の者は平壤に移動し所在部隊と同一行動</p> <p>部隊解散</p> <p>停戦</p> <p>防衛召集実施</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>平安北道水豊において高射砲陣地構築</p>		<p>爾後同地付近の在郷軍人に対し短期間数次にわたり教育召集を実施</p>		<p>朝鮮平安北道新義州において編成完結（常置員将校一、下士官五）</p>		<p>略</p>			
<p>中尉 西部 正 歳</p>									

第四一二特設警備工兵隊略歴

通称号 朝第七四五七部隊

0855

					昭 20	年 月 日	略 歴	
					2			1
					8			8
					8	8	<p>第四一三特設警備工兵隊略歴</p> <p>通称号 朝第七四五八部隊</p>	
					15	13		
					9	20		
					<p>軍令陸甲第一号により編成下令</p> <p>朝鮮平安南道海州において編成完結（常置員將校一、下士官四）</p> <p>爾後同地付近在郷軍人に対し短期間数次にわたり教育召集実施</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>防衛召集実施</p> <p>停戦にともない部隊解散</p> <p>隊長</p> <p>中尉 加藤 誠</p>		<p>略</p> <p>歴</p> <p>摘 要</p>	

0856



								昭 20	年 月 日	略 歴
10	10	10	9	8	8	8	4	1		
										朝鮮平安南道平壤において編成 爾後同地において同地区の警備
										日「ソ」開戦により防衛召集実施、同地区の防衛にあたる 停戦
										同地において武装解除
										現地召集者を召集解除し軍属を解雇
										将校は美勒洞に下士官以下三合里に収容さる
										将校は将校大隊編入、美勒洞出発
										興南港出帆入「ソ」
										下士官以下所在各作業大隊に編入昭和二十一年七月頃迄に興南港出帆入「ソ」
										司令官 少将 瀬川 四郎
										摘 要

平壤地区司令部略歴

0857

								昭 13	年
								8	月
								2	日
								朝鮮平安南道平壤において編成	略
								爾後同地において兵事業務に従事	
								日「ソ」開戦	歴
								停戦	
								同地において武装解除	要
								現地召集者を召集解除し軍属を解雇	
								将校は美勅洞に下士官以下三合里に収容さる	摘
								将校は将校大隊に編入、美勅洞出発	
								興南港出帆入「ソ」	要
								下士官以下所在作業大隊に編入、昭和二十一年七月頃迄に興南港出帆入「ソ」	
部長 少将 瀬川 四郎 (地区司令官兼任)									

平壤陸軍兵事部略歴

0858

		昭		年		月		日		略	歴	摘	要
		20	4	9	11	10	10	9	8				
		29	4	26	2	28	24	1	26	20	15	9	29
		<p>朝鮮平安北道新義州において編成 爾後同地において同地区の警備</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>停戦</p> <p>現地応召者を召集解除し軍属を解雇</p> <p>同地において武装解除</p> <p>平壤に集結</p> <p>将校は美勒洞に下士官兵は三合里に収容</p> <p>将校は将校大隊に編入、美勒洞出発</p> <p>興南港出帆</p> <p>入「ソ」</p> <p>以降下士官兵は所在作業大隊に編入昭和二十一年七月頃迄に興南港出帆入「ソ」</p>											
司令官													
少将 中尾 忠彦													

新義州地区司令部略歴

0859





										昭 20	昭 18	年 月 日	略	歴	摘 要									
9	11	10	10	9	9	8	8	8	8	8														
10	2	28	24	11	10	26	19	15	9	1														
<p>部下官兵は三合里作業第一二大隊等に編入昭和二十一年七月頃迄に入            入「ソ」            興南港出帆            將校は將校大隊に編入、美勒洞出発            平壤着、將校は美勒洞に、下士官兵は三合里に収容            海州出発            海州において武装解除            現地応召者を召集解除し軍属を解雇            停戦            日「ソ」開戦            爾後同地において兵事業務に従事            朝鮮平安南道海州において編成</p>																								

海州陸軍兵事部略歴

0862

							昭 20	年
9	9	8	8	8	4	3	2	月
28	21	30	15	9	10	27	28	日
<p>軍令陸甲第三四号により編成下令 札幌において第五方面軍司令部より差出人員を基幹として編成完結 択捉島天寧上陸、爾後主として米軍の上陸作戦を防禦し得る如く各部隊を指導 するとともに自衛準備に邁進す。 日「ソ」開戦</p> <p>樺太方面の戦闘推移に伴い司令部以下主力を北海道方面に転進し得る如く諸種 の準備に着手 停戦</p> <p>司令部は天寧飛行場付近に移動すると共に司令部所有船舶をもつて島内現地除 隊者約二〇〇名を根室まで輸送し召集解除す</p> <p>択捉島天寧飛行場において武装解除 択捉島重富作業大隊、広川作業大隊に編入 択捉島出発</p>							概	要
							摘要	

## 第八九師団司令部略歴

通称号摧第二三〇〇一部隊

概

要

摘要

0863

	9
	26
	「ポートワニ」經由入「ソ」
師団長 中将 小川 権之助	

0864



年	昭 19	昭 20	自	至
月	4	5	8	9
日	12	10	15	22
概要	<p>混成第三旅団司令部略歴                      (独立混成第四三旅団司令部)                      通称号權第一二六四部隊</p> <p>軍令陸甲第四一号により編成下令                      択捉島において独立混成第四三旅団編成完結                      軍令陸甲第三四号編成改正により第八九師団新設と同時に混成第三旅団司令部                      と改称、爾後同島において陣地構築防衛に任ず                      停戦                      択捉島天寧において武装解除                      択捉島庄司作業大隊、境作業大隊に編入                      天寧出發                      「ポートワニー」經由入「ソ」</p> <p>旅団長 少将 志波 信 孝</p>			
摘要				

0865

昭 昭 昭							昭		昭		年 月 日	独立歩兵第二九四大隊略歴 (独立混成第四三旅団独立歩兵第二九四大隊) 通称号 第一二六九四部隊
23	22	21					20	19				
6	8	6	11	9	8	8	3	5	4			
16			19		20 21 15 9		27		10 12		概 要	
<p>軍令陸甲第四一号により編成下令                      択捉島において独立混成第四三旅団編成完結、爾後陣地構築、飛行場建設作業に従事                      軍令陸甲第三四号編成改正により第八九師団新設と同時に混成第三旅団独立歩兵第二九四大隊と改称                      日「ソ」開戦                      停戦                      択捉島唐路において武装解除                      主力は択捉島第五〇作業大隊に編入                      同島瀕石に移動し材木運搬に従事                      同島出発、樺太大泊に上陸、道路作業に従事                      南樺太古屯に移動し木材伐採運搬作業                      名好に移動、諸作業に従事</p>												摘要

	昭 23	昭 22	昭 20	昭 23
	8	8	8	8
	31	27	25	29
	25	25	25	25
	26	31	24	
	真岡出發帰還	真岡に到着	同所出發	榊太大泊上陸、 気屯に到着収容され森林伐採に従事
	真岡出發帰還	真岡に到着	同所出發	天寧出發
	真岡出發帰還	真岡に到着	同所出發	天寧収容所に入所し道路作業に従事
	真岡出發帰還	真岡に到着	同所出發	一部択捉島第五一作業大隊に編入
	真岡出發帰還	真岡に到着	同所出發	同地出發

隊長 少佐 森田 正

		昭 20				昭 19				年		
		9	9	9	8	5	8	8	5	4	月	
		22	18	14	12	15	8	27	15	10	12	日
隊長 少佐 小出 貞治		<p style="text-align: center;">独立歩兵第二九五大隊略歴                      (独立混成第四三旅団独立歩兵第二九五大隊)                      通称号 推第一二六九五部隊</p> <p style="text-align: center;">概要</p> <p>軍令陸甲第四一号より編成下令                      択捉島において独立混成第四三旅団独立歩兵第二九五大隊編成完結                      向島留別に移動、同島の守備                      軍令陸甲第三四号編成改正により第八九師団新設と同時に混成第三旅団独立歩兵第二九五大隊と改称                      留別より「マトロ」に移動                      停戦                      択捉島具谷(マトロ)において武装解除                      択捉島において(少佐、小出貞治)作業大隊に編入                      択捉島天寧出発                      「ポートワニー」經由入「ソ」</p> <p style="text-align: center;">概要</p>										

0868

		昭 20			昭 19			年 月 日	概 要		
		9	9	9	8	8	5			4	
		26	23	21	3	18	15			27	10
<p>「ポートワニー」經由入「ソ」</p> <p>隊長 少佐 重富 広一</p>		<p>「ポートワニー」經由入「ソ」</p> <p>択捉島天寧出発</p> <p>択捉島において重富作業大隊に編入</p> <p>択捉島天寧飛行場において武装解除</p> <p>約一六〇名現地召集解除し北海道に輸送</p> <p>停戦</p> <p>兵第二九六大隊と改称</p>			<p>軍令陸甲第四一号により編成下令</p> <p>択捉島において独立混成第四三旅団独立歩兵第二九六大隊編成完結し天寧に駐屯、爾後陣地構築、道路作業、彈薬、糧秣運搬および海上警戒に任ず</p> <p>軍令陸甲第三四号編成改正により第八九師団新設と同時に混成第三旅団独立歩兵第二九六大隊と改称</p>			<p>独立歩兵第二九六大隊略歴</p> <p>(独立混成第四三旅団独立歩兵第二九六大隊)</p> <p>通称号摧第一二六九六部隊</p>			摘要

0869

1005

年		月		日		概	要	摘	要																
昭	19																								
昭	20	3	5	4																					
9	9	9	8	8	8																				
16	13	12	30	15	9																				
「ポートワニー」經由入「ソ」		天寧出発		主力は択捉島第三作業大隊に編入		一部は留別、年萌において武装解除		主力は択捉島天寧において武装解除		守備地において停戦		任じ尚一部自活のための作業に従事		日「ソ」開戦、部隊は主力をもつて陣地強化に一部は転進に伴う隊貨の輸送に		兵第二九七大隊と改称		軍令陸甲第三四号編成改正により第八九師団新設と同時に混成第三旅団独立歩		寧北方地区に一部留別年萌に駐屯し同地区の守備に任ず		択捉島において独立混成第四三旅団独立歩兵第二九七大隊編成完結、主力は天		軍令陸甲第四一号により編成下令	

独立歩兵第二九七大隊略歴  
 (独立混成第四三旅団独立歩兵第二九七大隊)  
 通称号 權第一二六九七部隊

0870

昭 21				昭 20			
7	6	9	9	9	9	9	9
1	19	16	2	22	17	14	2
<p>北樺太「デルベンスク」着</p> <p>樺太移動のため天寧出發</p> <p>「ソ」軍の命により天寧に移動第五五一作業大隊に編入</p> <p>年萌において武装解除</p> <p>年萌所在部隊</p>				<p>「ポートワニー」經由入「ソ」</p> <p>天寧出發</p> <p>留別において小出作業大隊に編入</p> <p>留別において武装解除</p> <p>留別所在部隊</p>			
<p>隊長 大尉 村上 信</p>							

昭 20	昭 19	年	独立歩兵第四一九大隊略歴 (独立混成第四三旅団独立歩兵第四一九大隊) 通称号 摧第一二六九八部隊
9	8	月	
21	30	日	
9	8	7	軍令陸甲第一〇〇号により編成下令 択捉島において独立混成第四三旅団独立歩兵第四一九大隊編成完結 爾後天寧付近において陣地構築及訓練に従事 軍令陸甲第三四号編成改正により第八九師団新設と同時に混成第三旅団独立歩兵第四一九大隊と改称 日「ソ」開戦 停戦 天寧飛行場において武装解除 天寧において三原録郎作業大隊に編入 天寧出發 「ポートワニー」經由入「ソ」
9	8	9	
9	8	9	隊長 少佐 三原録郎
			概要
			摘要

0872



		昭 20		昭 19		年 月 日	概 要
		9	8	8	7		
		18	29	27	31		
天寧出発		9	8	8	7		独立歩兵第四二〇大隊略歴 (独立混成第四三旅団独立歩兵第四二〇大隊) 通称号 摧第一二六九九部隊
蘇武大尉作業大隊に編入		9	8	8	7		
天寧飛行場において武装解除(除第一中隊)		9	8	8	7		
「ポートワニー」經由入「ソ」		18	29	27	31		軍令陸甲第一〇〇号により編成下令 択捉島において独立混成第四三旅団独立歩兵第四二〇大隊編成完結 爾後天寧付近において陣地構築作業、第一中隊は択捉島南部地区警備の命により丹根萌にあり警備 軍令陸甲第三四号編成改正により第八九師団新設と同時に混成第三旅団独立歩兵第四二〇大隊と改称 日「ソ」開戦 停戦
							摘要

		昭 22		昭 21		昭 20	
		8	8	6	7	1	8 8
		28	24	1	30	1	23 15
		<p style="text-align: center;">第一中隊所属隊の行動</p> <p>丹根萌において停戦</p> <p>丹根萌において武装解除</p> <p>以降作業大隊編成まで付近道路作業</p> <p>択捉島第五一作業大隊に編入後道路構築ならびに建築作業に従事</p> <p>年萌港付近にて道路作業</p> <p>瀬石にて伐採、輸送作業</p> <p>択捉島（年萌港）出発</p> <p>樺太大泊経由入「ソ」</p>					
		<p style="text-align: center;">隊長 少佐 蘇 武 義 美</p>					

		昭 20		昭 19		年					
		9	8	8	8	5	3	5	4	月	
		17	中旬	14	24	15	9	27	10	12	日
		<p>混成第三旅団砲兵隊                      (独立混成第四三旅団砲兵隊)                      通称号 擧第一二六四五部隊</p>									
		<p>概 要</p>									
		<p>軍令陸甲第四一号により編成下令                      択捉島において独立混成第四三旅団砲兵隊編成完結                      爾後同島付近の警備、陣地構築に従事                      軍令陸甲第三四号編成改正により第八九師団新設と同時に混成第三旅団砲兵隊と改称                      第一中隊、速射砲中隊、高射砲隊は豊浜付近に移転し陣地構築および付近の警備にあたる                      日「ソ」開戦、戦闘なし                      停戦                      第一中隊、高射砲中隊は天寧飛行場において武装解除                      本部、第二、第三、速射砲中隊天寧飛行場付近において武装解除                      各中隊において若干名現地召集解除ありたるも武装解除までに原隊に復帰                      択捉島作業隊(長広川礼順)に編入</p>									
		<p>摘 要</p>									

1008の2

9 9
26 23
「ポルトワニー」經由入「ソ」
択提島出發
隊長
少佐
広川
礼順

0876